

チベット仏教文献の寄附を受ける

1978年1月、印哲研究室は、宮坂教授の御尽力によりチベット仏教文献の購入のため巨額の寄附を受けることができた。これまで我国にあっては、わずかな大学がいわゆる蔵外經典を有していたのみであり、それを利用し、研究することは様々な理由から非常に困難であった。

1960年代の終りから1979年現在に至るまでにデリーを中心として〔甲〕撰述、すなわちサンスクリット等からの翻訳ではない〔乙〕独自の著作、約2千数百冊が複製された。これは、チベット本土にあった文献と、ヒマラヤ諸国に伝えられていたもののリプリントである。仏教を中心として、ボン教、医学、薬学、詩論、文法学などを含んでおり、〔丙〕文化のほとんどの領域にわたっている。これらのリプリント本の約半数を印哲研究室は購入することができることになった。まことに有難いことである。現在はずでに購入済みの図書四百冊近くが225号室の東半分に入れられた新しい書架の中に収められている。

以下、インドにおけるチベット文献の複製の現状と当研究室の収集の様子を大まかにご紹介したいと思います。

これらの複製本の中、半数近くはシリーズで出版されている。ニンマ派のシリーズとしては、Ngagyur Nyingmay Sunrab Series (GNS), 125 vols. がある。この中に、ニンマ派のタントラを集めた『カマ Bkah ma 14 vols., ジクメリンバ Hjigs med glin pa の全集 (9 vols.), ミパム Mi pham の全集 (17 vols.) が含まれている。この他のシリーズとしては、「埋蔵経」(gter ma) を集めたトタイエー Blo gros mthaḥ yas 編『大宝埋蔵経蔵』Rin chen gter mdzod (110 vols.), 同じく古いタントラを集めたラトナリンバ Ratna glin pa 編『十萬古タントラ』Rñin mahi rgyud

hbum (36 vols.), 大究竟(ゾクチェン)の教義を大成したロンチ
 ェンラプジャムパ Klon chen rab hbyams pa 著『七蔵』Mdzod
bdun (7 vols.), ロチェンダルマシュリー Lo chen dhar ma
sri の全集 (19 vols.) などが重要である。師(ラマ)から直接ヨ
 ーガの伝授を受けることを実践の中心とするカギユ派では、諸師の伝記が多
 数著された。そのうち『カギユセルテン』Bkañ brgyud gser phren
 (1 vol.), 『カギユセルテンチェンモ』Bkañ brgyud gser
phren chen mo (4 vols.) などが重要である。ロトタイェー(20
 vols.), ペーマカルポ Padma dkar po (24 vols.), ミキョドル
 ジェ Mi bskyod rdo rje (4 vols.), ディクン・ジクテンゴ
 ンポ Hbri guñ Hjig rten mgon po (5 vols.) などカギ
 ュ派の諸師の全集も出版されている。なおカリンポンにあるカギユ派の一分
 派カルマ派の本山からは、一連のカルマ派の哲学的著作が出されている。

サキヤ派に関しては、シャーキャチョクデン Śākya mchog Idan
 の全集(24 vols.), シャーキャリンチェン Śākya rin chen
 の全集(8 vols.) などチベット本土ではゲルク派からの圧力のためほと
 んど入手不可能だったものが出版されたことが注目される。この派の人々が
 集めたマンダラ理論の集大成、『タントラ部集成』Rgyud sde kun
btus (30 vols.), サキヤ派の成就法を中心として集めた『成就法集
 成』Grub thabs kun btus *(14 vols.) も複製された。サキヤ
 派に特有な理論である道果説の解説書も数冊出版されている。なお、この派
 の著作の複製としては、日本でも独自に『サキヤ全書』(12 vols.) が東洋文
 庫から出版されている。医学書のシリーズ Smanrtsis Shesrig
Spendzod Series (MSS) 125 vols. は、医学に関する著作の他に、
 カギユ, サキヤ, ニンマの諸派の著作を含む。

上記の諸派と関係を持ちつつもそれぞれ独立の派を開いたプトン Bu
ston (28 vols) とボトン Bo don (137 vols) の全集も複製され

た。ポトン全書は、Vol. 21までは文法、医学、仏教史、中観、俱舍などを扱い、Vol. 22以降は密教を扱っている。シチュ、チョナン、カダムの諸派の著作の複製も出版され、『中観派テキストシリーズ』Madhyamika Texts Series (8 vols.) のように学科別の叢書も出されている。

ゲルク派文献のシリーズは、Gedan Sunrab Minyam Gyumpher Series (GSM), 136 vols. であり、トウカン Thuḥu bkwan (10 vols.), ジャムヤンシェーパ Hjam dbyaṅs bshad pa 1世 (12 vols.), ジャムヤンシェーパ 2世 (15 vols.), クンタン・コンチョクテンペートンメ Gun than Dkon mchog bstan paḥi sgron me (10 vols.), ベルメン・コンチョクゲルツェン Dpal man Dkon mchog rgyal mtshan (11 vols.) などの全集を含んでいる。この叢書には更にイエシェーゲルツェン Ye śee rgyal mtshan やパンチェン1世などに関する伝記も入っている。ツォンカパとその二大弟子ゲルツァブ Rgyal tshab およびケードゥブ Mkhas grub の全集 (58 vols.) がこの叢書の最後の部分である。

このシリーズの他にもゲルク派の著作の複製は多い。

イエシェーゲルツェン (25 vols.), パボンカワ Pha bon kha ba (11 vols.), 現在のダライ14世の師ティチャンドルジェ Khri byaṅ rdo rje (5 vols.) などゲルク派の学僧の全書の他に、歴代のダライラマ、パンチェンラマの全集も出版されている。デブン、セラ、タシルンポなどの学問寺において用いられた教科書類やゲルク派の僧院史を書いたブルブ Phur bu の著作なども入手可能となった。ラダクのストク (あるいはトク Stog) 旧王宮にあった大蔵経写本 (経部, 109 vols.*) やデルゲ版の経部*がデリーで複製されている。以上の、主としてチベット人による複製の他、インド人学者ローケーシュチャンドラが編集している Sāta - Pitaka Series も重要な[子]の仏教文献を含んでいる。

1974年までに出版された[子]文献のマイクロフィッシュ*と、そのカード

・カタログが Institute for World Religions より出されている。

文中で*印のついたもの以外は印哲研究室にあるか、あるいは到着する予定である。この初夏までにはおそらく千冊に近いチベット文献がそろふことになる。研究室に入った図書のカタログを近い将来において作る予定である。

なお、研究室にはそれほど多い量ではないが、リプリント版ではない、チベットの木版刷りのチベット本も集められている。現在は、セラジェチュンバ全書、ロンチェンニンテック、ラムリムタルケンなどがある。このように木版刷りのチベット本の収集もはじまっている。

ボン教のものおよびポトン全書は東洋文庫に揃っているということもあり、当研究室に購入することはしなかった。その他のものに関してはできる限り多く集める方針であり、特にゲルク派、カギュ派、中観、唯識のものには特に注意を払うことにした。

各頁が離れているいわゆるポーティ・スタイルのものもあるが多くはB4版の洋装本であり、また英語の紹介もあるので、各本の最初を見るだけでチベット文献の体系がおぼろげながら伝わってくる。これらの図書が一人でも多くの人々に利用されんことを望んでおります。

(54年4月15日)

立川武蔵